

消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向 －越後出土の資料を中心に－

春日 真実

1 研究小史

佐渡小泊窯跡群で生産された須恵器（以下特に断らないかぎり小泊産須恵器とする）のロクロ回転方向に関する検討は近年途についたばかりである。

小泊産須恵器のロクロ回転の観察の重要性をはじめて説いたのは、渡邊朋和氏であろう（註1）。渡邊氏は『寺道上遺跡発掘調査報告書』の中で、小泊窯跡群の変遷を、既存の研究成果を概ね踏襲し、下口沢窯跡→カメ畑窯跡→江ノ下窯跡→高野遺跡という序列で変遷し、大木戸窯跡はカメ畑窯跡と並行するか、下口沢窯跡とカメ畑窯跡の間に位置づけられるとした上で、「江ノ下窯は実見していないが、下口沢段階では左右両回転があり、大木戸段階やカメ畑段階以降左回転が主体となるが、右回転も存在する。一方新津市上浦遺跡で出土している小泊産須恵器は（中略）下口沢段階が主で、カメ畑段階を含む土器群と考えるが、ほぼ全てが左回転で、下口沢窯跡で左右両回転がある状況とは異なる。（中略）越後国内で出土している須恵器がほぼ全て左回転であるにもかかわらず、小泊では少なくとも下口沢段階まで左右両回転があり、むしろ右回転が主流であった可能性がある。越後国内で出土している左回転の須恵器は、ロクロ左回転の工人集団が佐渡島外への輸出用に専らに製作したことを示すものなのだろうか。想像をたくましくすれば、下口沢段階まで左回転・右回転の集団が均衡していた中で、左回転の工人集団が佐渡島外への輸出用の生産をはじめ、カメ畑段階では左回転主流となり、右回転の工人集団は少数派にはなったが、佐渡島内は供給を続けていたと考えることはできないだろうか」としている。また、「小泊窯跡で窯跡毎に焼成する器種に差があるのか」、「焼成後に輸出用の器種を選別するのかどうか」、「島内用と島外用の須恵器が区別されていたのか」などを明らかにすべきであるとし、報告書中のロクロ回転方向の記載の重要性を指摘している〔渡邊2001〕。

北野博司氏も、小泊窯跡群で生産された須恵器に左回転のものが定量ある点に着目し、「一般的に須恵器成形時のロクロ回転方向は5世紀代には左回転主体だが、6世紀以降右回転が増加し、7世紀以降はほとんどが右回転となるが、愛知県猿投窯跡群や静岡県湖西窯跡群では7世紀以降にも左回転のものが残る」とし、小泊窯跡群の須恵器の一部は「東海地方の影響を受けたものと考えられ」、東海地方の影響を受けた須恵器は長野県や・上越市周辺で出土することから、「東海→信濃→頸城→佐渡という技術伝播が想定される」とした。また、「生産される器種には北陸地方やそれ以西に見られるものも多いことから、これらの地域からの技術導入も存在したものと思われる」としている〔羽茂町教育委員会2002〕（註2）。

これらの成果を受け、川村 尚氏は、食膳具を中心とし小泊窯跡群の各窯跡のロクロ回転について計量的な分析を行った。分析の結果、左回転と右回転は各時期を通じ並存するが、古い窯跡には左回転のものが多く、時期が下るに連れ右回転が増加する傾向があることを指摘した。また、ロクロ回転と器形・胎土とロクロ回転の方向にある程度相関性が認められることも指摘している。具体的には有台杯の高台が外端設置のもの、環状摘みを持つ杯蓋に左回転が多いことなどを挙げた。これらの器形的特徴は、越後も含めた北陸地方よりも東海地方に多く見られるもので、北野の想定を支持するものといえる。

川村氏の分析により、渡邊氏の想定の一部は成立しなくなつたが、それでも渡辺氏の指摘は非常に重要なことに変わりはない。渡邊氏が指摘するように、小泊窯跡群では左右両回転があるのに対し、越後国内

で出土している小泊産須恵器がほぼ全て左回転であるとすれば、ロクロ左回転の工人集団が島外輸出用に須恵器を生産していたと考えるのが自然であろう。

しかし、越後出土の小泊産須恵器のロクロ回転方向について計量的な分析が行われた例は、現在のところ小泊産須恵器の出土量が多いとはいえない新津市寺道上遺跡のみであり、渡邊氏が根拠のひとつとした上浦遺跡については正式な報告書が刊行されていない。渡邊氏の指摘を検証するために、小泊産須恵器のロクロ回転に関する計量的な検討を他遺跡ででも行うことが必要であろう。

2 対象とする資料と分析の方法

上記の状況を踏まえ、以下では越後出土の小泊産須恵器のロクロ回転について検討する。対象とする資料は、中条町藏ノ坪遺跡〔飯坂ほか2002〕、横越町上郷遺跡〔赤羽ほか1994・春日ほか1997〕、同町川根谷内墓所遺跡〔江口ほか2001〕、亀田町牛道遺跡〔立木ほか1999〕、新潟市积迦堂遺跡〔江口ほか2000〕、上越市今池遺跡SD3〔坂井ほか1984〕から出土し、報告書で図化されたロクロ水挽き成形の小泊産須恵器である。具体的には杯蓋・有台杯・無台杯・高杯・盤・中・小型の壺・瓶類などが対象となる。

小泊産須恵器の認定については肉眼観察によった。ロクロの回転方向は北野博司氏らの指摘におおむね従い、①底部の切り離し痕、②見込みの螺旋状の水挽き痕、③器面の砂粒の動きや有色粒子の擦痕などで判定した（註3）。

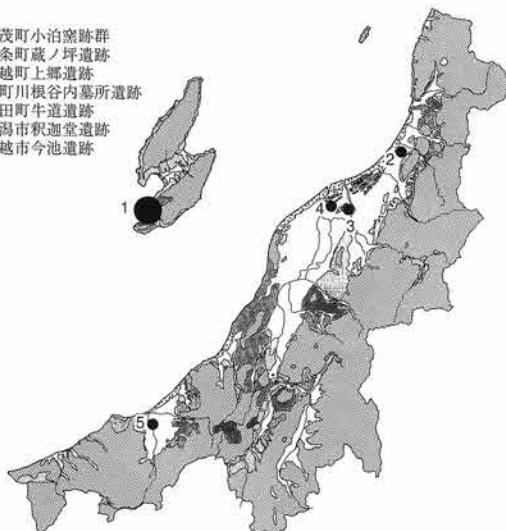
ロクロ回転は、水挽き・切り離し・ロクロケズリでそれぞれ異なる可能性があるが、今回の観察では水挽きと切り離しが異なる例は確認できなかった。一方、水挽き・切り離しとヘラケズリでロクロ回転方向が異なるものは僅かだが確認でき、これについては第2・3表では、水挽き・切り離しの方向のみを示したが、付表にはそれぞれの方向を記した。

产地およびロクロ回転の判定は基本的に一人で行っており、誤認したものが存在する可能性があり、また報告書で図化したもののみを対象としたため、実態を正確に反映していない可能性があるが、大まかな傾向は示せるものと考えている。

土器群の年代については、筆者の編年案〔春日1999〕を用い記述を行う。川村 尚氏の小泊窯跡群の編年との並行関係は第1表のよう用に考えている（註4）。

第1表 編年対照表

川村 [2002]	春日 [1999]	消費遺跡	
I-1 (K402)	IV3期	積迦堂遺跡X・XI層	↑ 川根谷内墓跡 ↓
I-2 (下口沢・大木戸窯)	V1期		
II (カメ畑1~3号窯)	V2期	藏ノ坪遺跡、積迦堂遺跡IX層	↑ 今池SD3 ↓
III-1 (ふすべ1号窯)	VI1期		
III-2 (江の下窯)	VI2・3期	牛道遺跡、上郷遺跡、積迦堂遺跡V層	



第1図 遺跡の位置

3 各遺跡の様相

中条町蔵ノ坪遺跡 [飯坂ほか2002]

IV期（8世紀後半～9世紀初頭）、VI1期（9世紀後半）を中心に営まれた遺跡であり、比較的まとまって小泊産須恵器が出土したSB9、SD265出土遺物はVI1期を中心とする時期のものであり、他の遺構・包含層出土の小泊産須恵器もVI1期前後のものと考えられる（第2図）。ロクロ回転方向の判別できた小泊窯跡須恵器は44個体で、左回転が40個体、右回転が4個体である。左回転が大半を占めるが、右回転のものも少量である。

横越町川根谷内墓所遺跡 [江口ほか2001]

V～VI期（9世紀前半～末）にかけて営まれた遺跡と考えられ、SD201から小泊産須恵器を定量含むV期（9世紀前半）の資料が比較的まとまって出土している。他の小泊産須恵器もV期を中心とする時期のものと考えられる（第3図）。ロクロ回転の判別できる小泊産須恵器は8個体あり、全て左回転であり、右回転のものは確認できない。

横越町上郷遺跡 [赤羽ほか1994、春日ほか1997]

93SX32、93SD22、94SD6などからVI2・3期（9世紀末）の遺物が比較的まとまって出土している。他の出土遺物の大半もこの頃のものと考えられる（第4図）。ロクロ回転方向の判別できる小泊産須恵器は8個体あり左回転・右回転とも4個体ずつ確認できる。

亀田町牛道遺跡 [立木(土橋)ほか1999]

SE73・255、SK90などから小泊産須恵器を定量含むVI2・3期の遺物がまとめて出土している。他の遺物の大半もVI2・3期（9世紀末）を中心とする時期のものと考えられる（第5図）。ロクロ回転方向の判別できる小泊産須恵器は17個体あり、左回転12個体、右回転5個体であり、左回転が主体を占めるが、右回転も定量確認できる。

新潟市积迦堂遺跡[江口ほか2000]

V2期～VI2・3期（9世紀前半～末）までの土器が層位的に出土している（第6・7図）。ロクロ回転方向の判別できる小泊産須恵器は153個体であり、左回転が129個体、右回転が24個体である。各層の時期はXⅠ・X層がV2期（9世紀前半）、IX層がVI1期（9世紀後半）、Ⅷ層がVI2・3期（9世紀末）、また火葬関連遺構としてまとめられたものはV2～VI1期（9世紀前半～後半）と考えられる。各層毎のロクロ回転方向はXⅠ層が左回転14個体・右回転2個体、X層が左回転72個体・右回転11個体、火葬関連遺構が左回転6個体・右回転1個体、IX層が左回転13個体・右回転5個体、Ⅷ層は左回転11個体・右回転0個体であり、各層とも左回転が主体を占める。

第2表 消費遺跡から出土した小泊産須恵器のロクロ回転方向

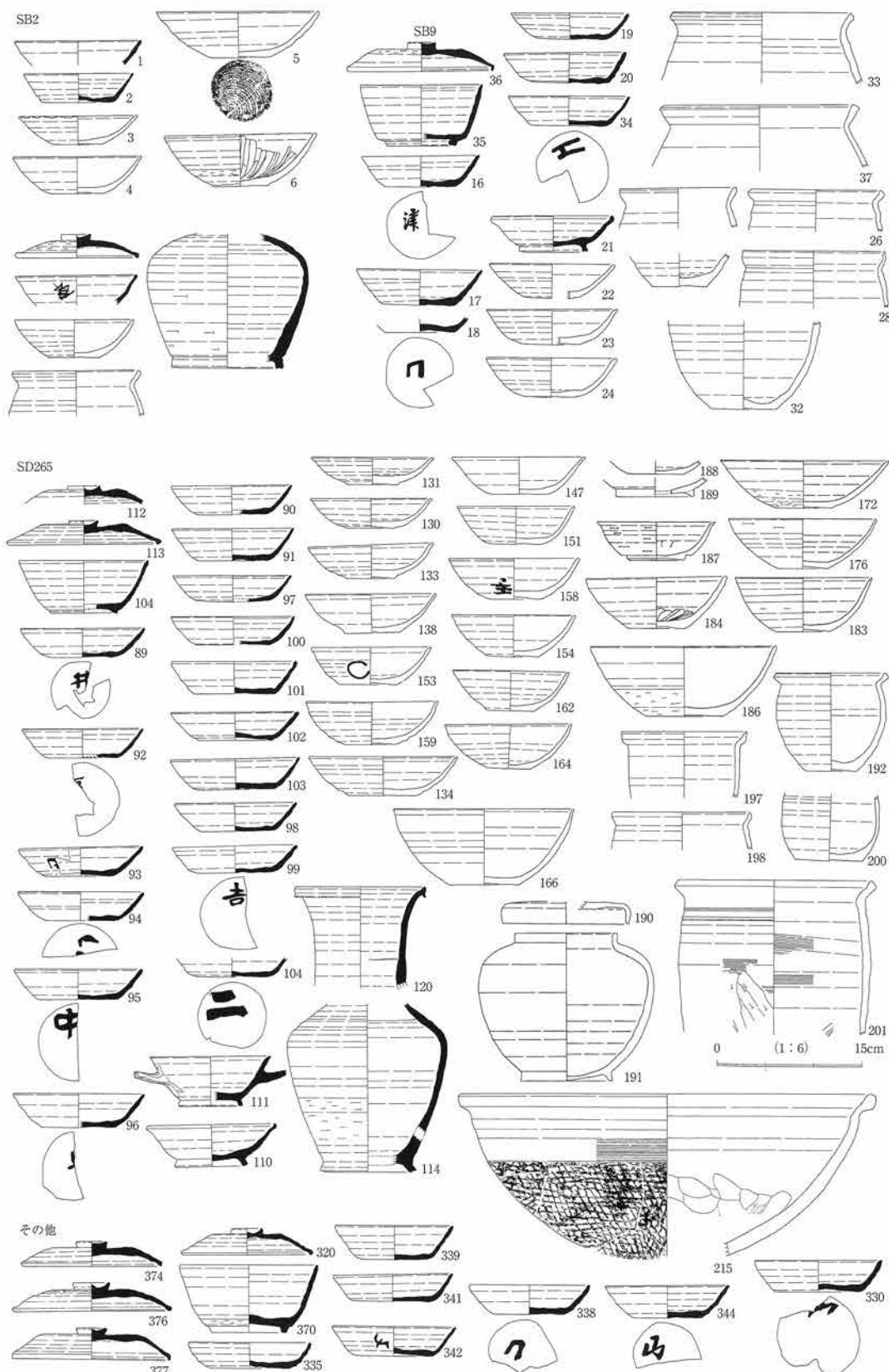
遺跡・遺構名/回転方向	左(比率)	右(非率)	合計	時期
中条町蔵ノ坪遺跡	40 (90.9%)	4 (9.1%)	44個体	VI1期
横越町川根谷内墓跡	8 (100%)	0 (0%)	8個体	V期
横越町上郷遺跡	4 (50%)	4 (50%)	8個体	VI2・3期
亀田町牛道遺跡	12 (70.6%)	5 (29.4%)	17個体	VI2・3期
新潟市积迦堂遺跡X層	14 (87.5%)	2 (12.5%)	16個体	V2期
新潟市积迦堂遺跡X層	72 (86.7%)	11 (13.3%)	83個体	V2期
新潟市积迦堂遺跡火葬関連遺構	6 (85.7%)	1 (14.3%)	7個体	V2～VI1期
新潟市积迦堂遺跡IX層	13 (72.2%)	5 (27.8%)	18個体	VI1期
新潟市积迦堂遺跡Ⅷ層	8 (100%)	0 (0%)	8個体	VI2・3期
新潟市积迦堂遺跡その他	13 (72.3%)	5 (27.7%)	18個体	V2～VI2・3期
上越市今池遺跡SD3	12 (85.7%)	2 (14.3%)	14個体	VI1・2期

1期（9世紀前半～後半）と考えられる

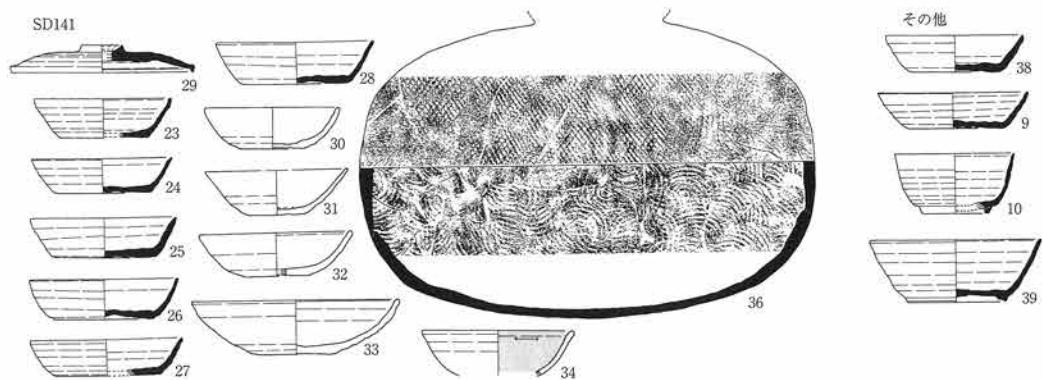
る。各層毎のロクロ回転方向はXⅠ層が左回転14個体・右回転2個体、X層が左回転72個体・右回転11個体、火葬関連遺構が左回転6個体・右回転1個体、IX層が左回転13個体・右回転5個体、Ⅷ層は左回転11個体・右回転0個体であり、各層とも左回転が主体を占める。

第3表 小泊産須恵器の時期別ロクロ回転方向（消費地）

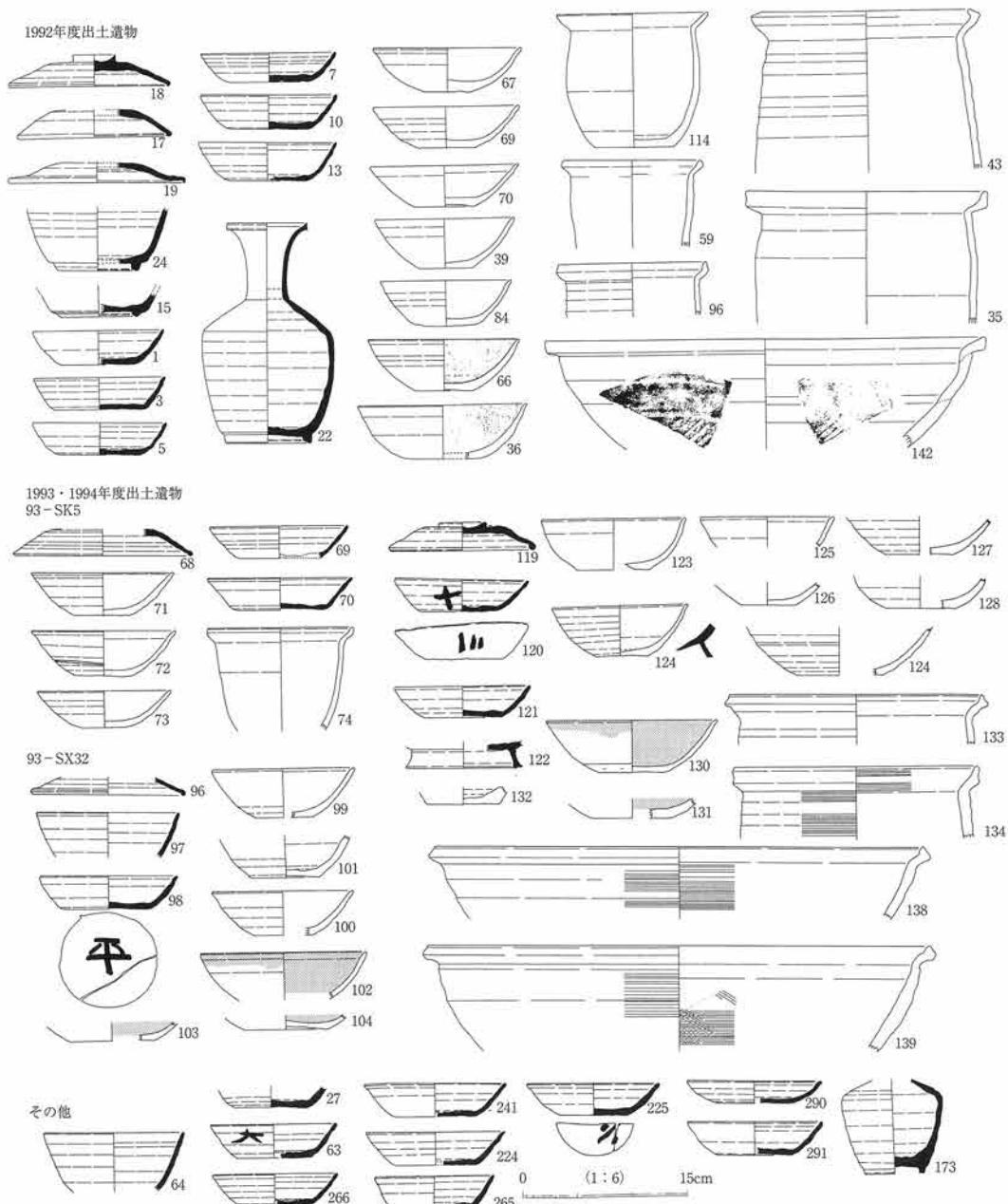
時期	左	右	合計
V期	94 (87.9%)	13 (12.1%)	107
V～VI1期	6 (85.7%)	1 (14.3%)	7
VI1期	53 (85.5%)	9 (14.5%)	62
VI1・2期	12 (85.8%)	2 (14.2%)	14
VI2・3期	24 (72.7%)	12 (27.3%)	36
V2～VI2・3期	13 (72.3%)	5 (27.7%)	18



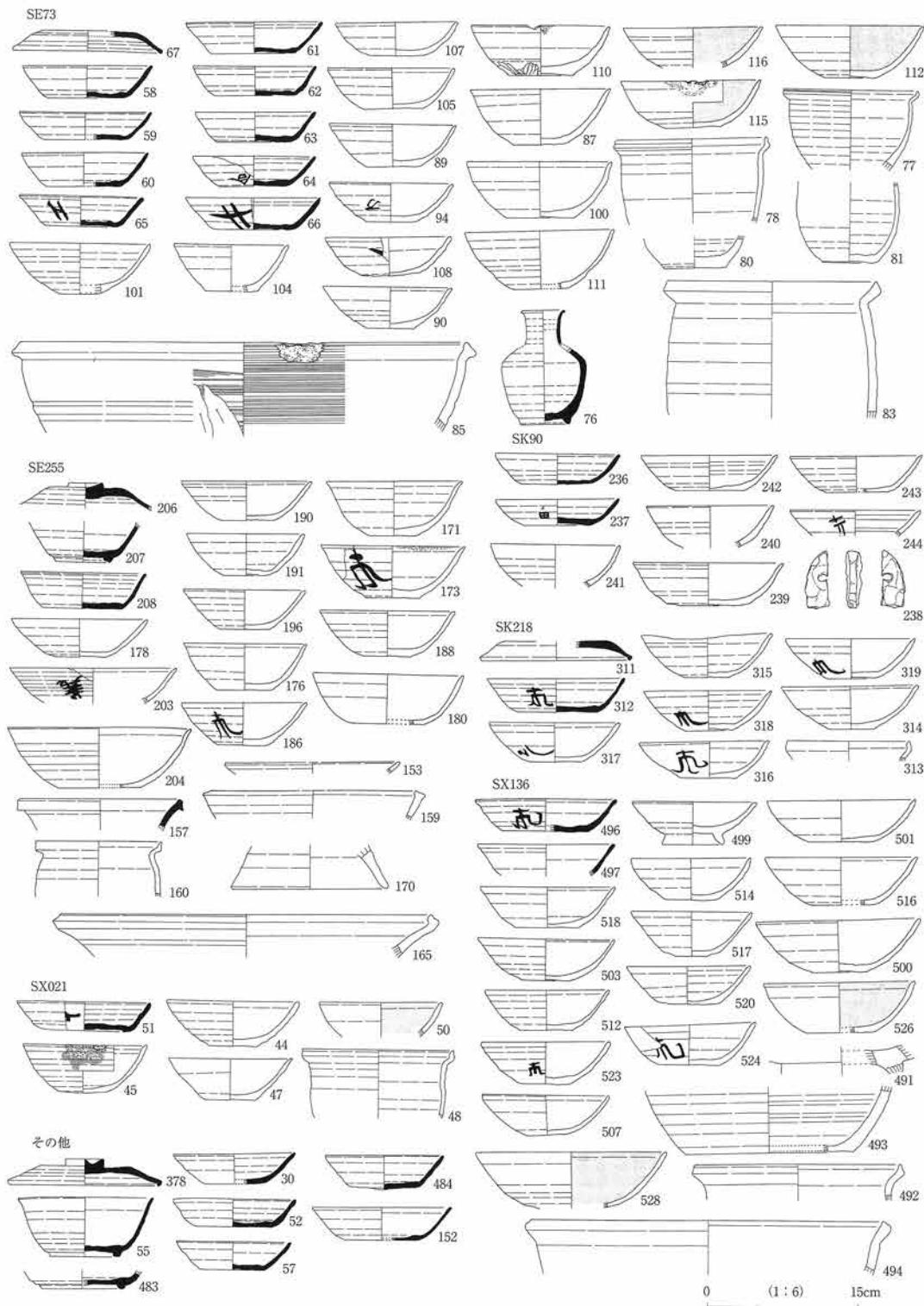
第2図 中条町蔵ノ坪遺跡出土土器（飯坂ほか[2000]より作成 遺物番号は報告書に一致）



第3図 横越町川根谷内墓所遺跡出土土器（江口ほか[2000]より作成 遺物番号は報告書に一致）



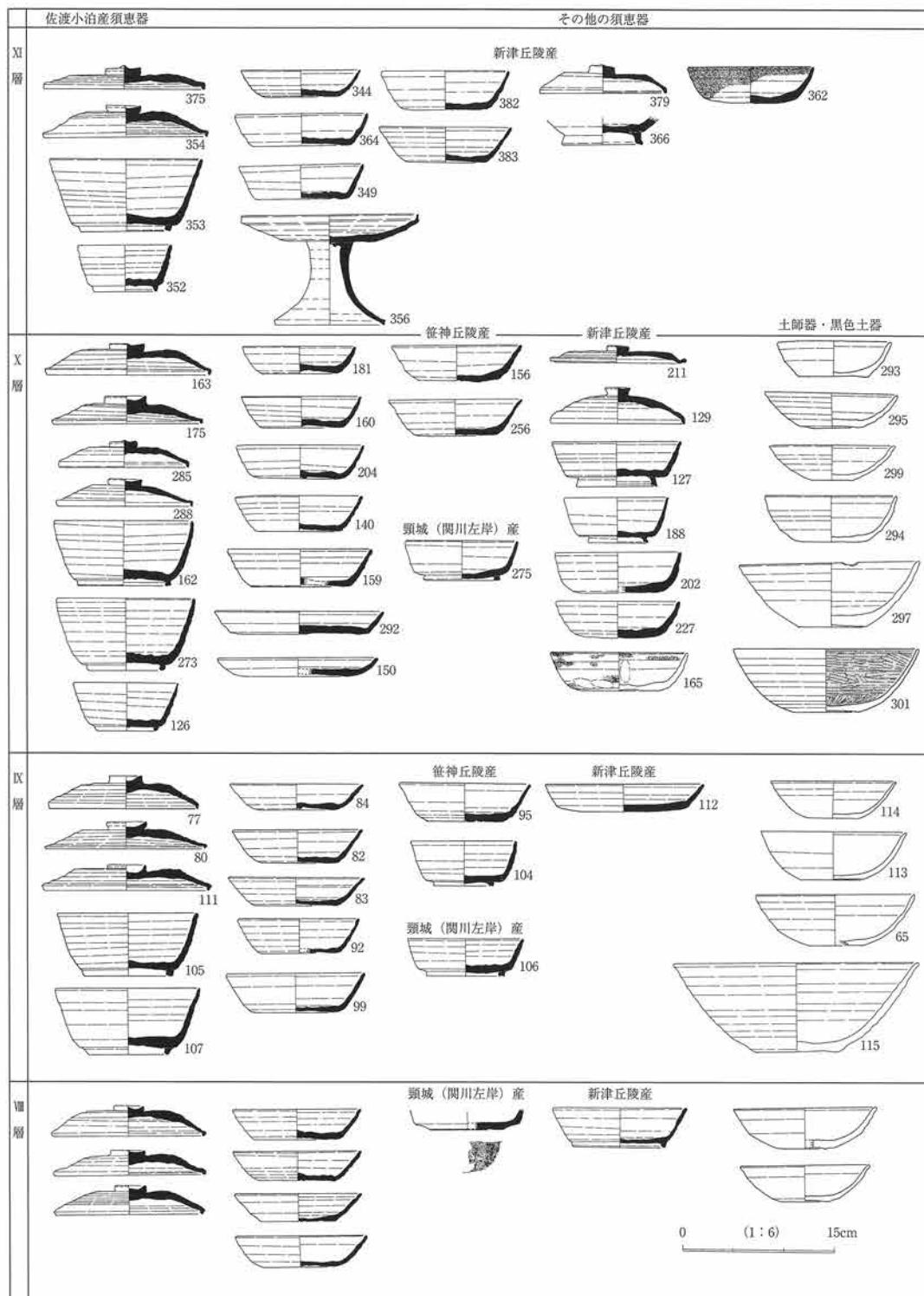
第4図 横越町上郷遺跡出土土器（赤羽ほか[1994]、春日ほか[1997]より作成 遺物番号は報告書に一致）



第5図 亀田町牛道遺跡出土土器（立木（土橋）[1997] より作成 遺物番号は報告書に一致）

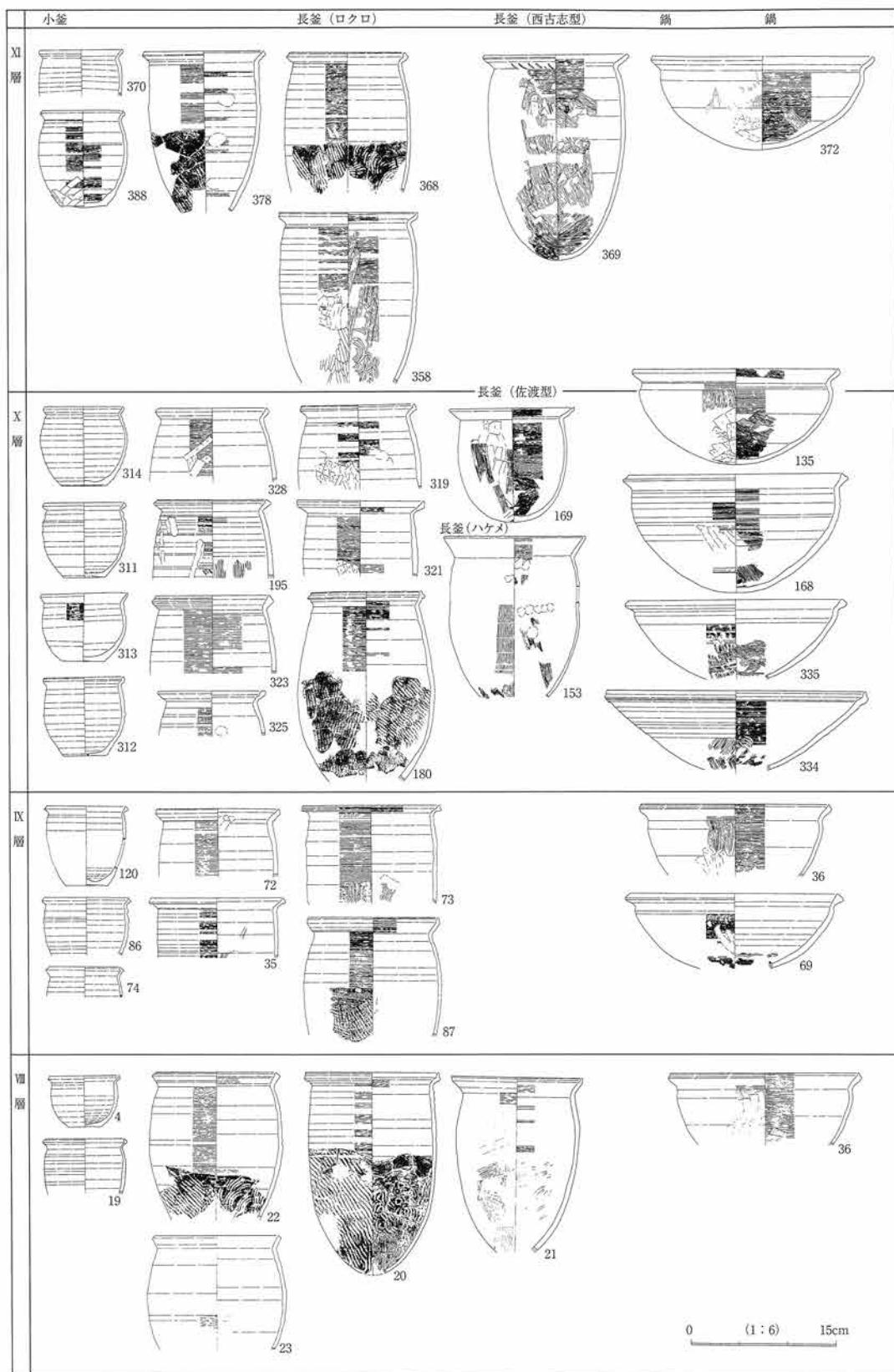
上越市今池遺跡 [坂井ほか1984]

SD3からVI1～VI2期にかけての遺物が大量に出土している（第8図）。ロクロ回転方向の判別できる小泊産須恵器は14個体で左回転12個体、右回転2個体であり、左回転が主体を占める。

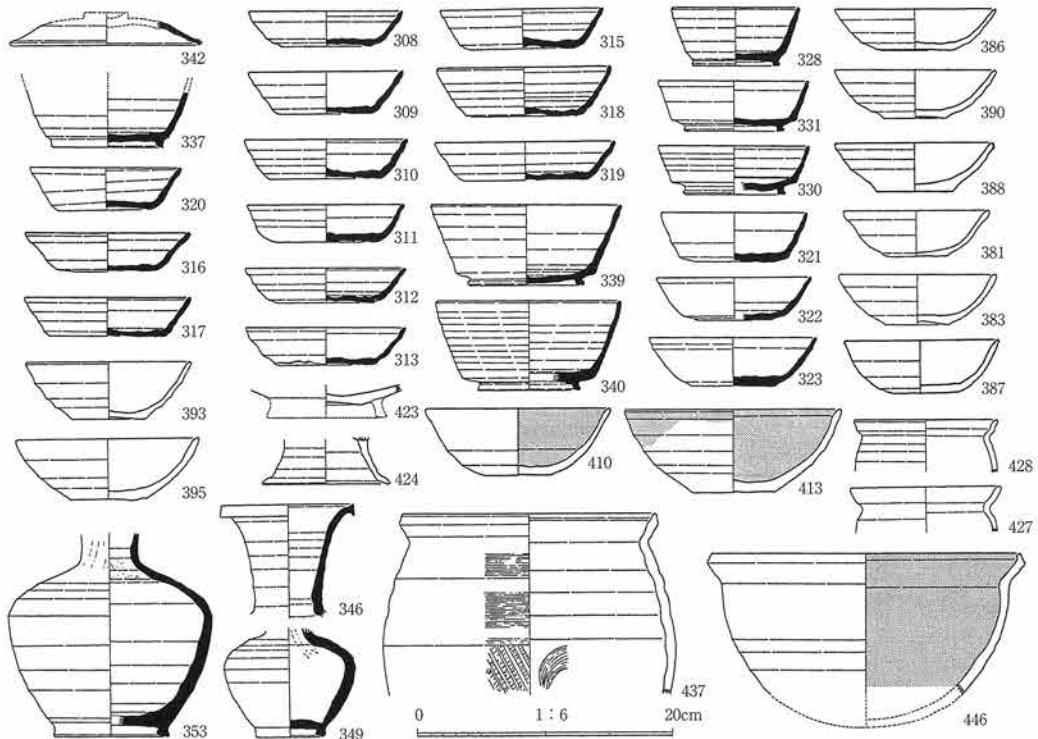


第6図 新潟市釈迦堂遺跡出土土器(1) (江口[2000]より作成 遺物番号は報告書に一致)

これらをまとめると第2・3表となる。上郷遺跡のように右回転と左回転が拮抗する遺跡も存在するが、基本的には各時期を通じ左回転のものが90~70%近くを占め、時期が下るにつれ右回転のものが若干増加する傾向にある。この比率が「ほぼ全て左回転」といえる比率かどうかはわからないが、越後における小泊産須恵器の大半を左回転のものが非常に多いことは確実であろう。



第7図 新潟市釈迦堂遺跡出土土器(2) (江口ほか[2000]より作成 遺物番号は報告書に一致)



第8図 上越市今池遺跡SD3出土土器（坂井ほか[1984]より作成 遺物番号は報告書に一致）

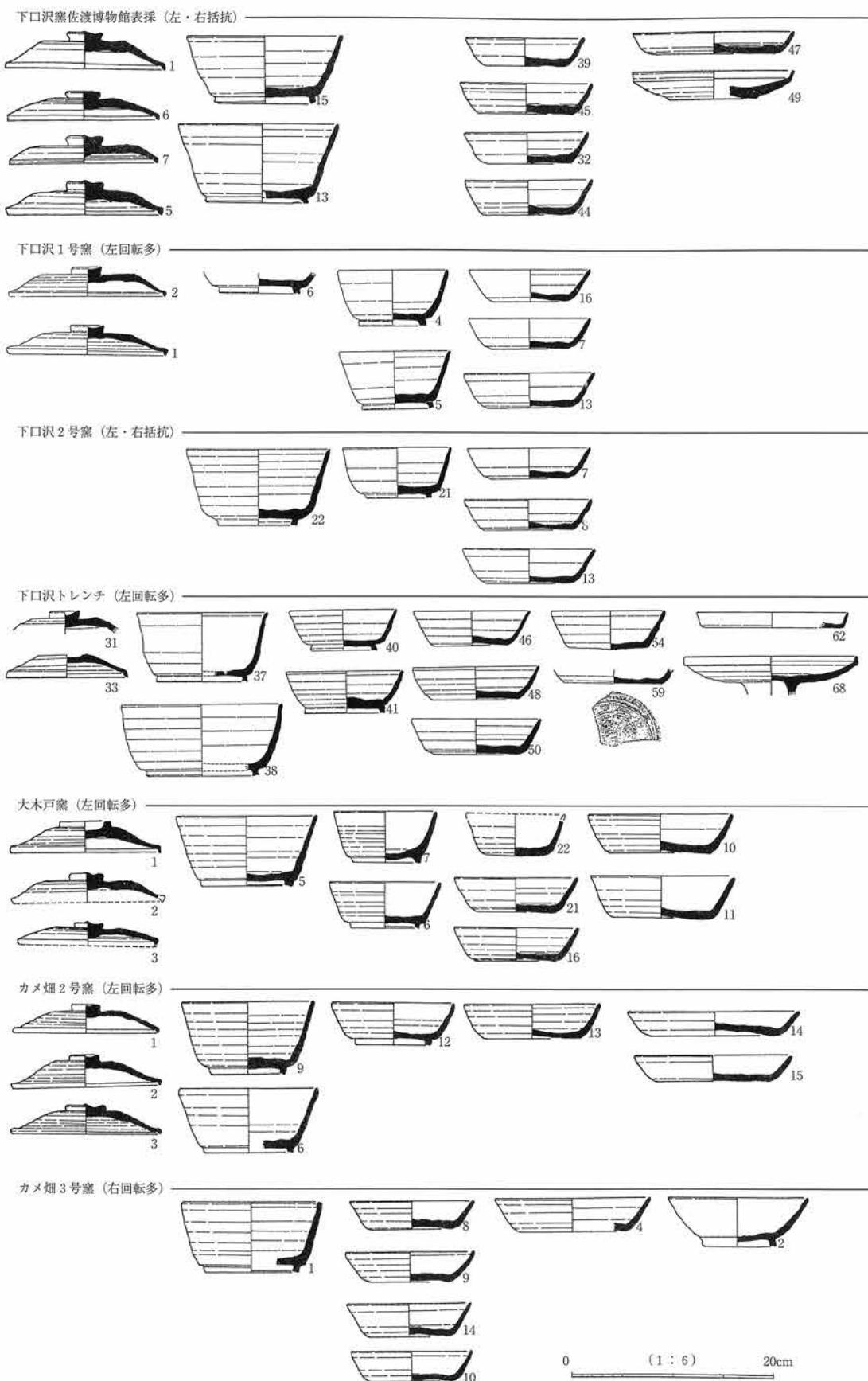
4 生産地の様相

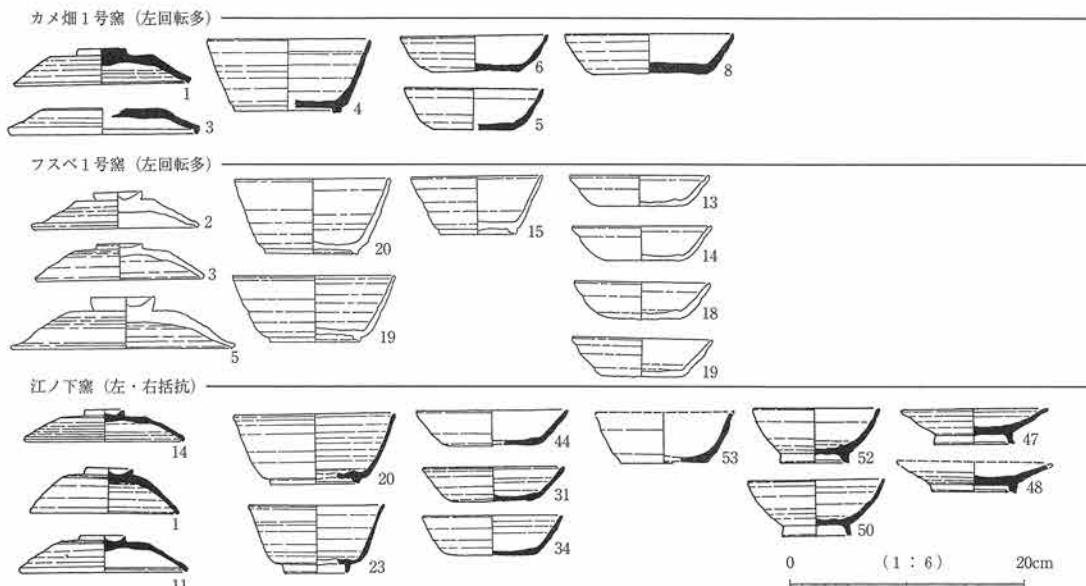
第4表は川村氏の計測値を基に小泊窯跡群から出土した須恵器のロクロ回転方向を示した表である。川村氏が指摘したように時期が下るにつれ右回転のものが増加する傾向がみられる。また、右回転が卓越するか左回転と拮抗する窯（下口沢佐渡博表採・カメ畠3号窯・江の下窯など）と左回転が卓越する窯（K-402窯・下口沢1号窯・大木戸窯・カメ畠1号窯・同2号窯・ふすべ1号窯など）の両者が存在する点も重要だと考える。右回転と左回転が拮抗する下口沢佐渡博表採と左回転が卓越する下口沢1号窯・大木戸窯は近接した時期と考えられ、また右回転が卓越するカメ畠3号と左回転が卓越するカメ畠1・2号もほぼ同時期と考えられる。また、左回転が卓越するふすべ1号窯は、右回転と左回転が拮抗する江の下窯に若干先行する可能性が高いが、それほど大きな時間差は存在しないと思われる。

すなわち、小泊窯跡群では年代が下るにつれロクロ右回転の比率が増加するが、操業期間の大半を占める時期で、右回転が卓越するか左回転と拮抗する窯と左回転が卓越する窯は並存した可能性が高い。また、下口沢地区やカメ畠地区の事例から右回転が卓越するか左回転と拮抗する窯と、左回転が拮抗する窯は同一支群内で並存した可能性も考えられる。

第4表 佐渡小泊窯跡群産須恵器のロクロ回転方向（生産地）

窯跡（時期）	左	右	合計
K-402（IV 2～V期）	11 (100%)	0	11
下口沢1号（V期）	7 (100%)	0	7
下口沢2号（V期）	2 (40%)	3 (60%)	5
下口沢トレンチ（V期）	23 (74.2%)	8 (25.8%)	31
下口沢窯佐渡博表採（V期）	25 (45.5%)	30 (54.5%)	55
大木戸窯（V期）	29 (93.5%)	2 (6.5%)	31
カメ畠1号（VI1期）	5 (83.3%)	1 (6.7%)	6
カメ畠2号（VI1期）	7 (70%)	3 (30%)	10
カメ畠3号（VI1期）	2 (16.7%)	10 (83.3%)	12
フスベ1号（VI 1～2期）	30 (71.5%)	12 (28.5%)	42
江ノ下窯（VI 2・3期）	14 (48.3%)	15 (51.7%)	29





第10図 羽茂町小泊窯跡群出土の須恵器(2) (坂井ほか[1991]、川村[2002] より作成 遺物番号は報告書に一致)

5 まとめ

以上のように越後で出土する小泊産須恵器の7～9割前後はロクロ回転が左のもので、右回転のものは少ない。一方、小泊窯跡群内には右回転が卓越するか左回転と拮抗する窯と、左回転が卓越する窯がかなりの期間並存した。そして、越後出土の小泊産須恵器のロクロ回転方向の時間的な推移（V期：左87.9%・右12.1%→VI1期：左85.7%・右14.3%→VI2・3期左71.2%・右28.3%）は小泊窯跡群における左回転が卓越する須恵器窯のロクロ回転方向の時間的な推移（大木戸窯（V期）：左93.5%・右6.5%→カメ畑1・2号窯（VI1期）：左75%・右25%→ふすべ1号窯（VI2期）：左72.3%・右27.7%）と概ね一致する。このような現象は、小泊窯跡群中の左回転が卓越する須恵器窯の製品が主に越後に供給された結果と考えるのが最も理解しやすい。前述したように、渡邊氏は今後明らかにしてゆくべき課題の1つとして「島内用と島外用の須恵器が区別されていたのかどうか」という点を挙げたが、上述の想定が正しいとするならば、島内用と島外用の須恵器が生産の段階である程度区別されていた可能性が高い（註5）。

なお、今回は水挽き成形のものを対象としたため、叩き成形の須恵器の回転方向については全く検討できなかった。また、右回転が卓越するか左回転と拮抗する窯と、左回転が卓越する窯が並存し、この2タイプの窯が同一支群内で並存した可能性も考えられるとすれば、どのような工人集団が存在し、それらがどう編成され、須恵器生産が行われていたかも検討しなければならない重要な点と考える。これらの点については今後の課題としたい。

小稿の作製に際し、以下の方々から様々な御教示を受けた。文末ではありますが記して感謝いたします。

梶田和樹 朝岡政康 伊藤秀和 川村 尚 北野博司 坂井秀弥 畑中英二 羽生令吉 藤井三好
本間敏則 山本 仁 渡邊朋和 羽茂町教育委員会 佐渡博物館

註

- 1) 渡邊氏は、筆者が1996年2月に上浦遺跡の遺物を見学した時には、すでに上浦遺跡出土の小泊産須恵器の大半が左回転であることを指摘していた。なお小泊産須恵器のロクロ回転方向がほとんど検討されなかったことの背景として、ほとんどの地域で7世紀以降の須恵器はロクロ回転が右であるという先入観があり、検討の対象となりづらかったものと思われる。
- 2) 2001年11月に行われた第2回小泊窯跡群整備策定委員会での発言である。
- 3) 北野氏らはこの他に、①口縁部で水挽き痕が抜ける方向、②変形に伴う小ジワや縮れジワの傾斜、③体部のロクロ目の傾斜などをロクロ回転方向を判断する観察項目として挙げている〔北野ほか2002〕
- 4) 1999年の論考ではVI期を3小期に細分したが、VI2期とVI3期を明確に区分できない可能性もあると現在は考えてる。したがって小稿ではとりあえずVI2・3期と併記する。また、大木戸窯の編年的な位置については、前稿〔坂井ほか1991〕を訂正し、川村氏の編年案に従う。大木戸窯には無台杯の底部外面にロクロケズリを行うものや、無台杯の体部から口縁部にかけての立ち上がりが急なものが定量存在することが主な理由である。
- 5) これ以外に示した「小泊窯跡で窯跡毎に焼成する器種に差があるのか」、「焼成後に輸出用の器種を選別するのかどうか」という2点については既存の資料からは判断できない。小泊窯跡群・佐渡の消費遺跡・越後の消費遺跡の小泊産須恵器の器種構成比率等に関する計量的な分析の蓄積が必要である。

引用・参考文献

- 赤羽正春ほか 1994『新潟県埋蔵文化財調査報告書第62集 上郷遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰ほか 2002『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 江口友子 2001『新潟県埋蔵文化財調査報告書第102集 川根谷内墓所遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 江口友子ほか 2000『新潟県埋蔵文化財調査報告書第100集 釈迦堂遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1999「第IV章—2 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編 古志書院
- 春日真実ほか 1997『新潟県埋蔵文化財調査報告書第87集 上郷遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 川村 尚 2002「佐渡郡羽茂町小泊窯跡」『新潟県考古学会第14回大会 研究発表会発表要旨』新潟県考古学会
- 北野博司・畠中英二・浅生卓司・穂田和樹・菅原雄一 2002「須恵器の成形におけるロクロ回転」『日本考古学協会第68回総会 研究発表要旨』日本考古学協会
- 木村康裕ほか 1995『羽茂町内遺跡確認調査報告書Ⅱ－小泊窯跡群』羽茂町教育委員会
- 木村康裕ほか 1996『羽茂町内遺跡確認調査報告書Ⅲ－小泊窯跡群』羽茂町教育委員会
- 坂井秀弥・鶴間正明・春日真実 1991「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥ほか 1984『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会
- 立木(土橋)由理子ほか 1999『新潟県埋蔵文化財調査報告書第91集 牛道遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 戸根与八郎ほか 1994『羽茂町内遺跡確認調査報告書Ⅰ－小泊窯跡群』羽茂町教育委員会
- 羽茂町教育委員会 2002『第3回 小泊窯跡群整備策定委員会資料』
- 渡邊朋和 2001「第VII章まとめ-2 遺物」『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2001『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会

付表 消費遺跡出土小泊産須恵器のロクロ回転方向

蔵ノ坪遺跡〔飯坂ほか2002〕

No.	層位・遺構	時期	器種	回転方向
2	SB2	V1期	無台杯	左
10	SB5	V1期	長頸瓶	左
16	SB9	V1期	無台杯	左
17	SB9	V1期	無台杯	左
18	SB9	V1期	無台杯	左
19	SB9	V1期	無台杯	左
20	SB9	V1期	無台杯	左
34	SB9	V1期	無台杯	左
35	SB9	V1期	有台杯	左
36	SB9	V1期	杯蓋	左
43	SB12	V1期	杯蓋	左
44	SB12	V1期	無台杯	不
76	SD207	V1期	有台杯	左
82	SD264	V1期	無台杯	左
89	SD265	V1期	無台杯	不
90	SD265	V1期	無台杯	不
92	SD265	V1期	無台杯	左
93	SD265	V1期	無台杯	左
94	SD265	V1期	無台杯	不
95	SD265	V1期	無台杯	不
96	SD265	V1期	無台杯	不
97	SD265	V1期	無台杯	不
98	SD265	V1期	無台杯	左
99	SD265	V1期	無台杯	右
100	SD265	V1期	無台杯	不
101	SD265	V1期	無台杯	不
102	SD265	V1期	無台杯	左
103	SD265	V1期	無台杯	右
104	SD265	V1期	無台杯	左
105	SD265	V1期	無台杯	不
106	SD265	V1期	無台杯	左
107	SD265	V1期	無台杯	左
108	SD265	V1期	無台杯	不
109	SD265	V1期	有台杯	左
112	SD265	V1期	杯蓋	不
113	SD265	V1期	杯蓋	左
302	SD851	V1期	無台杯	左
303	SD851	V1期	無台杯	不
317	SX410	V1期	無台杯	不
318	SX410	V1期	無台杯	不
319	SX410	V1期	無台杯	左
330	包含層	V1期	無台杯	左
335	包含層	V1期	無台杯	左
336	包含層	V1期	無台杯	不
337	包含層	V1期	無台杯	左
339	包含層	V1期	無台杯	左
341	包含層	V1期	無台杯	左
342	包含層	V1期	無台杯	右
343	包含層	V1期	無台杯	左
345	包含層	V1期	無台杯	左
346	包含層	V1期	無台杯	不
347	包含層	V1期	無台杯	左
348	包含層	V1期	無台杯	左
349	包含層	V1期	無台杯	左
351	包含層	V1期	無台杯	不
352	包含層	V1期	無台杯	左
353	包含層	V1期	無台杯	不
354	包含層	V1期	無台杯	不
355	包含層	V1期	無台杯	不
365	包含層	V1期	有台杯	不
368	包含層	V1期	有台杯	不
370	包含層	V1期	有台杯	左
374	包含層	V1期	杯蓋	左
375	包含層	V1期	杯蓋	左
376	包含層	V1期	杯蓋	左
377	包含層	V1期	杯蓋	左

川根谷内墓所遺跡〔江口2001〕

No.	層位・遺構	時期	器種	回転方向
9	SK122	V期	無台杯	左
10	SK122	V期	有台杯	不
23	SD141	V期	無台杯	不
24	SD141	V期	無台杯	左
25	SD141	V期	無台杯	左
26	SD141	V期	無台杯	左
27	SD141	V期	無台杯	不
28	SD141	V期	無台杯	左
29	SD141	V期	杯蓋	左
38	SD6	V期	無台杯	不
39	SD201	V期	有台杯	左
41	包含層	V期	無台杯	不
42	包含層	V期	無台杯	不
43	包含層	V期	無台杯	不

上郷遺跡〔春日〕

No.	層位・遺構	時期	器種	回転方向
209	包含層他	V12期	無台杯	不
224	93SD10	V12期	無台杯	左
225	93SD10	V12期	無台杯	不
226	93SD10	V12期	無台杯	不
227	93SD10	V12期	無台杯	不
241	水田跡	V12期	無台杯	左
253	包含層他	V12期	無台杯	不
288	包含層他	V12期	無台杯	不
289	包含層他	V12期	無台杯	不
290	包含層他	V12期	無台杯	不
291	包含層他	V12期	無台杯	不
292	包含層他	V12期	無台杯	不

牛道遺跡〔立木(土橋)ほか1999〕

No.	層位・遺構	時期	器種	回転方向
20	SD200	V12期	無台杯	不
21	SD200	V12期	無台杯	不
30	SD019	V12期	無台杯	不
31	SD019	V12期	有台杯	不
51	SX021	V12期	無台杯	左
52	包含層他	V12期	無台杯	左
53	包含層他	V12期	有台杯	不
55	包含層他	V12期	有台杯	左
56	包含層他	V12期	有台杯	不
57	包含層他	V12期	無台杯	左
58	SE73	V12期	無台杯	左
59	SE73	V12期	無台杯	不
60	SE73	V12期	無台杯	不
61	SE73	V12期	無台杯	左
62	SE73	V12期	無台杯	左
63	SE73	V12期	無台杯	左
64	SE73	V12期	無台杯	右
65	SE73	V12期	無台杯	右
66	SE73	V12期	無台杯	左
67	SE73	V12期	杯蓋	不
152	SE234	V12期	無台杯	不
236	SK90	V12期	無台杯	右
237	SK90	V12期	無台杯	右
311	SK133	V12期	杯蓋	不
312	SK133	V12期	無台杯	左
343	SK228	V12期	有台杯	不
378	SD71	V12期	杯蓋	左
475	SX262	V12期	無台杯	左
496	SX136	V12期	無台杯	不
497	SX136	V12期	無台杯	左

釈迦堂遺跡〔江口ほか2000〕

No.	層位・遺構	時期	器種	回転方向
1	埴層	V12期	無台杯	不
5	埴層	V12期	有台杯	左
6	埴層	V12期	杯蓋	左
7	埴層	V12期	無台杯	左
8	埴層	V12期	無台杯	左
9	埴層	V12期	無台杯	不
11	埴層	V12期	無台杯	左
12	埴層	V12期	無台杯	左
24	埴層	V12期	無台杯	不
25	埴層	V12期	無台杯	左
26	埴層	V12期	無台杯	左
27	埴層	V12期	無台杯	不
28	埴層	V12期	無台杯	不
29	埴層	V12期	無台杯	不
30	埴層	V12期	杯蓋	左
31	埴層	V12期	杯蓋	左
32	埴層	V12期	杯蓋	左
37	火葬関連	V～V1期	無台杯	不
38	火葬関連	V～V1期	有台杯	左
39	火葬関連	V～V1期	有台杯	不

积迦堂遺跡 [江口ほか2000]

No.	層位・遺構	時期	器種	回転方向
40	火葬関連	V～VI1期	有台杯	不
41	火葬関連	V～VI1期	高杯	左
42	火葬関連	V～VI1期	無台杯	不
43	火葬関連	V～VI1期	無台杯	左
44	火葬関連	V～VI1期	無台杯	不
45	火葬関連	V～VI1期	無台杯	不
46	火葬関連	V～VI1期	無台杯	左
47	火葬関連	V～VI1期	無台杯	不
48	火葬関連	V～VI1期	有台杯	不
49	火葬関連	V～VI1期	有台杯	右
50	火葬関連	V～VI1期	杯蓋	左
56	火葬関連	V～VI1期	長頸瓶	左
77	IX層	V11期	杯蓋	左
78	IX層	V11期	無台杯	左
79	IX層	V11期	無台杯	不
80	IX層	V11期	杯蓋	左
81	IX層	V11期	無台杯	右
82	IX層	V11期	無台杯	右
83	IX層	V11期	無台杯	左
84	IX層	V11期	無台杯	右
88	IX層	V11期	無台杯	左
89	IX層	V11期	無台杯	不
90	IX層	V11期	無台杯	不
91	IX層	V11期	無台杯	左
92	IX層	V11期	無台杯	不
93	IX層	V11期	無台杯	不
94	IX層	V11期	無台杯	左
96	IX層	V11期	無台杯	左
97	IX層	V11期	無台杯	左
98	IX層	V11期	無台杯	左
99	IX層	V11期	無台杯	不
100	IX層	V11期	無台杯	右
101	IX層	V11期	無台杯	不
102	IX層	V11期	無台杯	右
103	IX層	V11期	無台杯	不
104	IX層	V11期	有台杯	不
105	IX層	V11期	有台杯	左
107	IX層	V11期	有台杯	左
108	IX層	V11期	有台杯	不
109	IX層	V11期	杯蓋	左
110	IX層	V11期	杯蓋	ヶ左水右
111	IX層	V11期	杯蓋	不
125	X層	V期	無台杯	右
126	X層	V期	有台杯	左
128	X層	V期	有台杯	左
136	X層	V期	高杯	不
137	X層	V期	無台杯	左
138	X層	V期	有台杯	右
140	X層	V期	無台杯	左
141	X層	V期	無台杯	左
142	X層	V期	無台杯	左
149	X層	V期	有台杯	左
150	X層	V期	無台盤	不
154	X層	V期	無台杯	不
157	X層	V期	杯蓋	左
159	X層	V期	無台杯	左
160	X層	V期	無台杯	不
161	X層	V期	無台杯	右
162	X層	V期	無台杯	左
163	X層	V期	杯蓋	左
164	X層	V期	杯蓋	左
170	X層	V期	有台杯	不
173	X層	V期	無台杯	左
174	X層	V期	無台杯	左
175	X層	V期	杯蓋	右
178	X層	V期	無台杯	不
179	X層	V期	無台杯	左
181	X層	V期	無台杯	左
182	X層	V期	無台杯	不
183	X層	V期	杯蓋	左
184	X層	V期	無台杯	右
185	X層	V期	無台杯	左
186	X層	V期	杯蓋	左
189	X層	V期	杯蓋	左
191	X層	V期	無台杯	左

积迦堂遺跡

No.	層位・遺構	時期	器種	回転方向
192	X層	V期	無台杯	左
193	X層	V期	無台杯	左
197	X層	V期	無台杯	不
198	X層	V期	無台杯	不
199	X層	V期	無台杯	不
203	X層	V期	有台杯	不
204	X層	V期	無台杯	左
205	X層	V期	無台杯	左
206	X層	V期	無台杯	左
207	X層	V期	有台杯	左
213	X層	V期	無台杯	左
217	X層	V期	無台杯	不
218	X層	V期	無台杯	左
219	X層	V期	無台杯	左
220	X層	V期	無台杯	不
221	X層	V期	無台杯	左
222	X層	V期	無台杯	左
223	X層	V期	無台杯	不
224	X層	V期	無台杯	左
225	X層	V期	無台杯	左
226	X層	V期	無台杯	左
229	X層	V期	無台杯	左
230	X層	V期	無台杯	左
232	X層	V期	無台杯	左
233	X層	V期	無台杯	左
234	X層	V期	無台杯	右
235	X層	V期	無台杯	不
236	X層	V期	無台杯	左
237	X層	V期	無台杯	右
238	X層	V期	無台杯	左
239	X層	V期	無台杯	左
241	X層	V期	無台杯	左
242	X層	V期	無台杯	左
243	X層	V期	無台杯	左
244	X層	V期	無台杯	不
245	X層	V期	無台杯	左
246	X層	V期	無台杯	左
247	X層	V期	無台杯	左
248	X層	V期	無台杯	右
249	X層	V期	無台杯	左
250	X層	V期	無台杯	不
251	X層	V期	無台杯	左
252	X層	V期	無台杯	不
253	X層	V期	無台杯	不
254	X層	V期	無台杯	左
255	X層	V期	無台杯	左
257	X層	V期	無台杯	左
258	X層	V期	無台杯	右
259	X層	V期	無台杯	左
260	X層	V期	無台杯	不
261	X層	V期	無台杯	不
262	X層	V期	無台杯	不
263	X層	V期	無台杯	右
264	X層	V期	無台杯	不
265	X層	V期	無台杯	不
266	X層	V期	無台杯	不
267	X層	V期	無台杯	不
268	X層	V期	無台杯	右
269	X層	V期	無台杯	不
270	X層	V期	無台杯	左
271	X層	V期	無台杯	不
272	X層	V期	無台杯	不
273	X層	V期	有台杯	左
274	X層	V期	有台杯	左
277	X層	V期	有台杯	左
278	X層	V期	有台杯	左
279	X層	V期	有台杯	左
280	X層	V期	有台杯	左
281	X層	V期	有台杯	不
282	X層	V期	有台碗	左
283	X層	V期	杯蓋	左
284	X層	V期	杯蓋	左
285	X層	V期	杯蓋	左
286	X層	V期	杯蓋	左
287	X層	V期	杯蓋	左

积迦堂遺跡

No.	層位・遺構	時期	器種	回転方向
288	X層	V期	杯蓋	左
289	X層	V期	杯蓋	左
290	X層	V期	杯蓋	左
291	X層	V期	杯蓋	左
292	X層	V期	無台盤	左
341	XI層	V期	無台杯	不
342	XI層	V期	無台杯	不
343	XI層	V期	無台杯	左
344	XI層	V期	無台杯	右
345	XI層	V期	無台杯	左
346	XI層	V期	無台杯	左
347	XI層	V期	無台杯	左
348	XI層	V期	無台杯	左
349	XI層	V期	無台杯	左
350	XI層	V期	無台杯	不
351	XI層	V期	無台杯	不
352	XI層	V期	有台杯	左
353	XI層	V期	有台杯	左
354	XI層	V期	杯蓋	左
356	XI層	V期	高杯	左
363	XI層	V期	無台杯	不
364	XI層	V期	無台杯	左
365	XI層	V期	無台杯	右
371	XI層	V期	有台杯	不
374	XI層	V期	無台杯	左
375	XI層	V期	杯蓋	左
377	XI層	V期	無台杯	不
380	XI層	V期	壹蓋	不
381	XI層	V期	無台杯	不
384	XI層	V期	無台杯	不
385	XI層	V期	杯蓋	左
390	不明	V～VI期	無台杯	左
391	不明	V～VI期	無台杯	不
392	不明	V～VI期	無台杯	左
393	不明	V～VI期	無台杯	不
394	不明	V～VI期	無台杯	不
395	不明	V～VI期	無台杯	不
396	不明	V～VI期	無台杯	左
397	不明	V～VI期	無台杯	左
398	不明	V～VI期	無台杯	右
399	不明	V～VI期	無台杯	左
400	不明	V～VI期	無台杯	右
401	不明	V～VI期	無台杯	左
402	不明	V～VI期	無台杯	左
403	不明	V～VI期	無台杯	左
404	不明	V～VI期	無台杯	右
405	不明	V～VI期	無台杯	左
406	不明	V～VI期	無台杯	左
407	不明	V～VI期	無台杯	左
408	不明	V～VI期	無台杯	左
409	不明	V～VI期	無台杯	右
410	不明	V～VI期	無台杯	不
411	不明	V～VI期	無台杯	不
412	不明	V～VI期	無台杯	不
413	不明	V～VI期	無台杯	右
415	不明	V～VI期	有台杯	左

今池遺跡 [坂井ほか1984]

No.	層位・遺構	時期	器種	回転方向
307	SD3	VI1・2期	無台杯	不
308	SD3	VI1・2期	無台杯	左
309	SD3	VI1・2期	無台杯	左
310	SD3	VI1・2期	無台杯	左
311	SD3	VI1・2期	無台杯	左
312	SD3	VI1・2期	無台杯	右
313	SD3	VI1・2期	無台杯	左
314	SD3	VI1・2期	無台杯	左
315	SD3	VI1・2期	無台杯	左
316	SD3	VI1・2期	無台杯	右
317	SD3	VI1・2期	無台杯	左
318	SD3	VI1・2期	無台杯	左
319	SD3	VI1・2期	無台杯	不
320	SD3	VI1・2期	無台杯	左
337	SD3	VI1・2期	有台杯	左
342	SD3	VI1・2期	杯蓋	左